

第1回 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会

参考資料 1

議 事 概 要

事項	第1回 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 議事概要	出席者	10名 (随行者・事務局除く)
日時	平成26年10月16日(木) 14:00~16:00	場所	兵庫県学校厚生会館 7F大会議室
内容	<p>1 開会</p> <p>(1) 開会あいさつ</p> <p>(2) 出席者紹介</p> <p>2 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会</p> <p>(1) 設置について(設置要綱、公開要領)</p> <p>(2) 総合治水条例について</p> <p>(3) 策定スケジュールについて</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画地域の概要 ・総合治水の基本的な目標 ・総合治水の推進に関する基本的な方針 ・河川下水道対策 ・流域対策 ・減災対策 <p>(2) 第1回ワーキングの主な意見と対応について</p> <p>(3) 防災福祉コミュニティへのアンケート結果について</p> <p>4 その他(連絡事項)</p> <p>5 閉会</p>		
資料	<p>議事次第、出席者名簿、配席図</p> <p>【資料1-1】 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 設置要綱</p> <p>【資料1-2】 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 設置要綱 改訂表</p> <p>【資料2】 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 公開要領</p> <p>【資料3】 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画について</p> <p>【資料4】 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画策定スケジュール</p> <p>【資料5-1】 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画(概要版)</p> <p>【資料5-2】 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画(素案)</p> <p>【資料5-3】 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画の概要</p> <p>【資料6】 第1回ワーキングの主な意見と対応について</p> <p>【資料7】 防災福祉コミュニティへのアンケート結果について</p>		

1 開会

神戸県民センター長より開会のあいさつを行った。

事務局より、構成員の紹介を行った。

2 神戸（表六甲河川）地域総合治水推進協議会

（1）設置について（設置要綱、公開要領）

事務局は、【資料1-1】、【資料1-2】により「神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 設置要綱」の内容及び改訂について説明を行った。

事務局は、【資料2】により「神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 公開要領」の説明を行った。

（2）総合治水条例について

事務局は、【資料3】により「神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画について」の説明を行った。

（3）策定スケジュールについて

事務局は、【資料4】により「神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画策定スケジュール」の説明を行った。

（県民委員）自宅で簡単に雨水をためることは良いことである。県ではそういった取り組みを行って行くのか。

（事務局）各戸貯留を推進していきたい。

（県民委員）新湊川があふれると東側は流れていくが、西側の菊水町あたりは貯まる。新湊川はどれくらいの雨で注意しないといけないか。雨量を教えて欲しい。

（事務局）この後の議事の中で説明する。

3 議事

（1）神戸（表六甲河川）地域総合治水推進計画

事務局は、【資料5-3】により「神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画」の説明を行った。

主な意見

（県民委員）住吉川は台風18号では濁流が流れていたが、台風19号では濁流ではなかった。何があったのかと心配した。砂防えん堤、治山ダムの整備や監視を続けて欲しい。防災福祉コミュニティは地震を中心に活動してきたが、水害も含めて訓練していく。被災時には、いかに生活を支えていくか、地域での助け合いが必要である。

（会長）台風18号では1年から数年の間に貯まった不安定土砂が流れたもの、台風19号ではそれらが洗われたため流出しなかったものと考えられる。小学4年生の教育が一生を左右すると言われている。教育委員会と連携して効果的に防災教育を行って行く必要がある。県は山から河口まで一貫した対策を行うよう努力して欲しい。

（県民委員）砂防えん堤は堆積土砂を取らないと機能しないと思っていたが、認識が変わった。もっと広く理解してもらえるようにPRすべきだ。

（事務局）パンフレットを作って広報しているが、広く周知できていない。積極的にPRして行きたい。

（会長）土石流は水と土が分離すると土が止まるので、砂防えん堤に貯まった土の中に水がしみこみ土が止まる。砂防えん堤は工事前の河床勾配の1/2までは堆砂させられる。土砂がたまることで、山腹の崩壊を抑える効果がある。

（県民委員）新湊川が何回もあふれている。上流の山が崩れると橋桁に流木が引っかかってあふれる。山崩れがしないように対策して欲しい。

(会長) 時間雨量 100 ミリが 2 時間続くとまずい。通常は浸透するが、雨が強すぎて地表流になると土が削られて山崩れにつながる。また、六甲山系では対策が進んでいるが 100%ではない。「そなえる」が必要。

(県民委員) 都賀川は下水道が整備され、(直径が) 1 m位の暗渠が集まって急な増水となった。学校教育や婦人会、老人会などで PR していく必要がある。コミュニティは高齢化しており、若い人がいない。防災の避難訓練に 1,000 名以上参加している。避難訓練が大事である。

(県民委員) 台風 18 号では床下まで水が来た。台風 19 号も覚悟していた。神戸では 100 ミリの雨は降っていないが、いつ来るかわからないので訓練をしていきたい。老人の昼食会で気を失った人が出たが、救急処置されて助かった。訓練のおかげである。

(会長) 訓練していても本番では全てできない。訓練をしていなければ何もできない。訓練を続けて欲しい。

(県民委員) 東山にある防災ステーションのモニターは本当に映るのか。

(市委員) 水防センターの建物の中に水位と雨量のモニターがある。

(県民委員) その話は聞いたことがなく、地元の人も知らないので、防災訓練時に来て説明して欲しい。

(市委員) 新湊川があふれると、右岸と左岸で氾濫形態が違くと先ほどおっしゃっていたが、右岸側の低地区では湊川ポンプ場の排水区域となっている。新湊川が改修されて河床が低くなったのでポンプの動く頻度は少なくなった。

(県民委員) 大同町の上流の水を排水している筈である。ポンプ場流域を確認して欲しい。

(県民委員) 福田川の山陽電鉄に流木が詰まってあふれたことがある。河口の堆積がひどかったが、今は大丈夫である。上流部が開発されると危ない。

(会長) 昭和 42 年の水害では、川の東西方向に向かって浸水が広がっている。川があふれたら道路を伝って水が流れる。その時どうするかを考えておいて欲しい。想像をたくましくする必要がある。

(市委員) 下水道は河川と違い大きな流域をもっていないので断面が小さく、市街地部分の雨水を排水する能力しか持っていない。川から水があふれて、道路を走った場合、その水量を下水道で排除するのは難しい。排水溝の目詰まりで雨水が道路を流れるケースも過去に生じている。

(会長) 道路を水が流れたらどうなるのか、備える中身が変わっていくのか考えて欲しい。神戸は阪神淡路大震災を経験したので防災意識が高い。今後も市民の防災力を高めて行って欲しい。

(県民委員) 震災の経験も風化しつつある。昼間は人がいないので、小中学生を対象とした訓練が必要である。学校の協力が必要である。最近、若い人が防災の中心になりつつある。県も、市民の積極的な地域への参加を進めて行ってほしい。

(会長) 神戸は大学が充実していて、学生ボランティアが多い地域である。学校との連携が必要である。

4 その他(連絡事項)

(事務局) 第 2 回ワーキングは 11 月下旬、第 2 回協議会は来年の 1 月中旬を予定している。

5 閉会

第1回 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 出席者一覧

(順不同、敬称略)

属性	委員氏名	主 な 役 職	出欠	代理人氏名	代理人役職
学識経験者	沖村 孝	神戸大学名誉教授	出席		
兵庫県	太田 和成	神戸県民センター長	出席		
神戸市	末永 清冬	神戸市建設局長	代理出席	畑 恵介	建設局下水道河川部長
県民	渡辺 利信	(東灘区) 住吉川清流の会会長	出席		
	大森 末広	(灘区) 河原自治会長ほか	出席		
	後藤 實	(中央区) 生田自治連合会長ほか	出席		
	中井 末治	(兵庫区) 菊水地区防災福祉コミュニティ委員長ほか	出席		
	渡邊 攝子	(兵庫区) 湊山地区防災福祉コミュニティ委員長ほか	欠席		
	岸本 圭吉	(長田区) 番町地区防災福祉コミュニティ本部長	出席		
	佐々木 利雄	(須磨区) 大黒地区防災福祉コミュニティ本部長	出席		
	岡松 治利	(垂水区) 垂水区自治会連絡協議会会長	出席		

議事録確定署名人

座長:神戸土木事務所 所長補佐(企画調整担当)

神戸土木事務所 副所長
